

12月11日第9回セミナーリフレクション

講師：中部学院大学の後藤孝文先生

テーマ：「学び合う学びとヒドウン・カリキュラムについて」

久しぶりに、後藤先生のお話を聞けて、とても勉強になりました。自分も普段からヒドウン・カリキュラムには気を付けていようとは思っていますが、今回、いろんな先生の視点や気づきを聴いて、まだまだ意識されていないものが多いと感じました。意図しないヒドウン・カリキュラムを意識して、意図的に良い影響を与えていくのは難しいと思いますが、頑張りたいと思います。また、お話を聞きたいです。トロンボーンも頑張ってくださいね。

「ヒドウン・カリキュラム」について教師が行動に気を付けないと、子どもが真似をする、学習するという認識だった。子どもが静かにならないうちに話してしまったり、時間を守らなかったりすると、「教師がしているから、僕らもいいんだ」とってしまうのが怖く、新任のころから自分が言ったことは、絶対に守ることに気を付けてきました。

今回、ヒドウン・カリキュラムについて、悪い面だけでなく、良い面にも伝わることもあると知ることができた。意図的に行うのは、まだ難しく子どもに身につけさせたいという熱い思いが、伝わるということを感じて接していきたいです。

後藤先生、本日も貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。日ごろの授業だけでなく生活そのものの中にヒドウン・カリキュラムがあることを、改めて感じました。「無意識に行われているノームを意識する」ことで、授業の見方や人の関係性が見方が広がることを学びました。

私事ですが、職員室での私の居方が、教室での先生方の居方につながるのかもしれないと考えました。・・・恐ろしいことです。

明日から、ヒドウン・カリキュラムを意識して、先生方とかかわりたいと思いました。本日は、いい学びと刺激をありがとうございました。

教育活動の細やかな一つ一つに潜在的、二次的な効果があり、悪い効果があるやり方は避けなければならないし、良い効果のあるやり方があれば、できればそれを狙って行いたいと思った。

若い先生たちが、そこまで考えて活動するのはなかなか大変だとも思った。

対生徒でなく、対教師の場面においても、自分の行動の裏に相手を感じることを、もっと意識しなければと思った。どうもありがとうございました。

自分自身は教室に入って、雰囲気を感じ取ることがなかなかできません。今年は、自分の立場上、多くの学校の授業を見させていただくことができました。短時間で感じるものが、本物なのか、疑問に思い悩みながら、その感じ取ることが正しいのか、見つけようとしています。そのためか、細かいことに目が行ってしまっています。

教室に入った瞬間に感じる雰囲気を大切に、その理由を探していこうと思います。本気で学び、授業の場では、一緒になって学んでいこうと思います。ありがとうございました。

本当に、素敵なお話でした。

まずは、「学び合う学び」を行って、こういう子どもたちにしたいという気持ちを校内で高めて

いくことが大切だと思いました。

また、学びの作法について、その意図を整理することができました。授業ビデオでおきているヒドゥン・カリキュラムを、ぜひ、本校の先生方にも紹介していきたいと思いました。前半は、自省することばかりでしたが（これまでの自身を振り返って）、後半は、わくわくして、大変学びの多い半日でした。本当にありがとうございました。

日頃の自分の行いを振り返りながら、お話を聞いて、とても反省しました。いいクラスを作ろうと思ったら、まずは、私自身がいい人間になること、それを本気で伝えていくことに尽きるのではないかと思います。

普段子どもたちとかかわるとき、どうしても雑になったり、冷たい言葉が出てしまったりします。もっと、もっと思いやりをもって、ていねいに、一人ひとりを大切にしていけば、もっといいクラスになるのではと思います。でも、そもそもいいクラスって？私の作りたいクラスって？と改めて考え直すきっかけになりました。

自分の仕事の逃げ道を作ることになってしまうかもしれませんが、子どもたちに最も大きな影響力のあるヒドゥン・カリキュラムは家庭だなと思いました。

後藤先生がいやだいやだとおっしゃったので、今日を楽しみにしていましたが、たくさん勉強させていただき、すてきな時間になりました。ありがとうございました。

本日は、大変勉強になりました。ありがとうございました。

最近、学級に生まれる雰囲気は、どのような日々の積み重ねが影響し作られていくのだろうと気になっていました。

今日のヒドゥン・カリキュラムを学び考えるきっかけをいただけたので、月曜から自分の立ち振る舞いや自分の目指す学年や授業、生徒への願いにむけて、本気で考えていきたいと熱い気持ちになりました。

私は、一番遠くに感じる子どもを大切にしたいと思っているのですが、日々、積極的に活動する子や、とくに困り感を感じない子は、どう感じているのかなと省みる機会になりました。

今日は、豊田からうかがって本当に良かったです。ありがとうございました。

どこまでがヒドゥン・カリキュラムで、どこからが指導によるものなのかという疑問に対して、明確にすることが重要ではないかと答えていただき、考えが深まったように思います。ありがとうございました。

これから学校の様子、学級の姿をみる視点をいただけたように思いました。

ヒドゥン・カリキュラムという言葉は、数年前の夏季研修で教えていただいた言葉です。そのときは、教室環境が児童生徒に与える影響について教えていただきましたが、今回は、授業とりわけ「学び合う学び」にもヒドゥン・カリキュラムがあること、その具体例を教えていただき、さらに、学校生活に生かせると感じました。

教師として人間力を高めなければと分かってはいても、人間としてまだまだ未熟なところばかりです。子どもの前に立つときは、特にヒドゥン・カリキュラムのことを頭に置き、責任をもって子どもたちとかかわりたいと改めて思いました。

本日はありがとうございました。

本日、自分が確認したこと

- ① 子どもと教師は平等で、子どもに求めることは、教師は必ず行い守る
- ② 共感することの大切さ
- ③ 子どもの「よさ」にまず気づく
- ④ 子どもの「できない」理由を知る、探す
- ⑤ 質の高い、価値ある発言への価値づけをする

「学び合う学び」を違った角度から考えることができ、とてもよかった。

人前に立って、話したり、考えたりする教師にとっては、知っておくべき内容がたくさんあったように思います。

ぜひ、自分でも学んでいきたい項目の一つとなりました。ありがとうございました。

ヒドゥン・カリキュラムの基盤が「雰囲気」「場のあり方」「活動」「伝わるメッセージ」「環境」「風土」「人間関係」「評価」など……、にあることを、改めて知ることができました。

そして、そのカリキュラムを「意識するか、しないか」がとても興味深かったです。そんな中で、教師が「意図的でないようにして、意図的に表現していくこと」が貴重なポイントになるように思います。新たな学びを提供していただき、ありがとうございました。

新しい視点で学校や学級、授業を見直す手がかりを与えていただきました。ありがとうございました。

T子さんの話が、初任研に適しているのでは、というお言葉がありました。早速、学校に戻って考えてみたいと思います。本校も少経験者が多く、本人が意図しているのとは違った方向に子どもたちやクラスが動いてしまい、戸惑う先生方を多く見ます。今回のお話を整理して、クラスの指導に生かしていただくことで、何かの解決へのきっかけになればと感じています。

職員の中にも、ヒドゥン・カリキュラムが存在していると思います。それが、できるだけ「良いもの」になるよう、自分自身がこれから考えていきたいと思っています。

学び合う学びの哲学とヒドゥン・カリキュラムの関係性を意識づけてもらった良い機会になりました。

これまで考えていなかったことだけに新鮮でした。

学び合う学びを本気で考えている人となり、それこそがヒドゥン・カリキュラム（よい影響を与える）になりえることを授業ビデオの教師の姿から学びました。

教師が一人の子どもを一人の子どもとして尊重し、一緒に学んでいこうとする気持ちが、よきヒドゥン・カリキュラムを生むと思いました。

こんな授業をしたい。こんな子供たちを育てていきたい。という思いを、自校に戻って共有したいと思います。ありがとうございました。

ヒドゥン・カリキュラムを学び合う学びとの関係で、どう料理するか興味を持っていたが、うまいものだと感じた。

よく育児に関して「子どもは親の言うようにはならないが、親がやっているようになる」という意味の言い方をされることがある。教育（教室・授業）でも同じだと感じた。

後藤先生ありがとうございました。ヒドゥン・カリキュラムについて浅い知識しかないことがよく分かりました。また、偏った視点でしかとらえていなかった自分の学びを深く反省しました。これまでさまざまな本や講演会等で取り上げられていることとは全く違っていました。教育課程論の専門家である後藤先生が、ヒドゥン・カリキュラムという切り口で学びを生み、新たな世界に導いてくださいました。学び合う学びの歩み、学生の発言、国語の授業を媒介に、私たちをつなぎ、学びを深めてくださいました。研究者としてのアプローチや研究的態度のあり方についても学びました。これからもご指導のほどよろしくお願ひします。このセミナーで、新たな仲間と出会いました。学び合う学びセミナーに毎回集う尊敬するすてきな先生方と学び、今日も幸せでした。このほんわかした温かい学びの輪がさらに広がることを願っています。

ただ、ただ、耳の痛いお話ばかりで、自分を恥ずかしく思いました。

私は「学び合う学び」に出会って、授業と子どもが心から大好きになりました。でも、未だに大好きな教材、大好きな子どもに恩返しができていません。

それは、自分自身の力量不足だと思い、いつも申し訳なく思います。だからこそ、いくつになっても本気で求めたい。それなら、できそうだと思う、日々授業と生徒に向き合わせてもらっています。

いつまでできるか、わかりませんが、本気で求める永遠の課題です。とこれでいいのか、迷いながらやっていますが、今日は、背中を押していただいた思いです。ありがとうございました。

ヒドゥン・カリキュラム、はじめて知りました。学生にも伝えていきます。